

第8回 国際サゴヤシシンポジウム (EISS) 開催の報告

豊田由貴夫

立教大学

第8回の国際サゴシンポジウムが2005年8月4日から6日に、インドネシアのパプア州の州都ジャヤプラで開催された。大会はパプア大学とパプア州との共催で開催され、ジャヤプラの州庁舎において行われた。

今回のシンポジウムのメイン・テーマは、「持続的プランテーション、多様な活用および工業開発を通じたサゴヤシの経済的利用ならびに潜在能力の利用促進」であり、このテーマのもと、以下の4点が目的として掲げられていた。

1. 食糧および食品産業のための潜在的な一次産品としてのサゴヤシの利用促進
2. サゴヤシ生産と工業利用などに関する調査研究情報の共有
3. サゴヤシ利用の最適化に向けた問題点の検討と解決
4. 将来におけるサゴヤシ研究プログラムの発展を図る方策の提案

参加者はインドネシア各地、マレーシア、オランダ、タンザニアなどにわたり、日本からは、発表者9名とその他数名の参加者があり、海外からの参加としては一大グループを形成していた。

第1日目、州知事や林業大臣も臨席したフォーマルな開会式に続き、基調講演として「インドネシアにおけるサゴヤシの多様性と生産性」、「サゴバイオマスの多様な利用と工業開発」、「サゴ産業の商業開発を促進するための重要課題」の3題が行われ、これに続いて2日間で27題の口頭発表、ならびに6点のポスター発表が行われた。内容は、ヤシの分類・遺伝的特徴、植物形態、土壌環境、食品開発、商業開発の可能性など、サゴヤシに関わるきわめて広範囲の研究が紹介された。特に主催者のインドネシア側からは、パプア州に広く見られるサゴヤシ林の商業的開

発の可能性について、多くの発表がなされた。

大会の運営は、インドネシアらしいフォーマルな運営と、コーヒブレイクや食事が毎回用意される厚い接待のもとで行われた。また、会場では、サゴを使った製品の展示もさかんであった。会期中にはサゴヤシ研究において貢献した人たちへの表彰があり、本会からは岡崎正規会長ならびに山本由徳副会長に対する表彰があった。

なお、このシンポジウム参加に際しては、本会からの参加者8名に対して学術振興会からの援助がなされた。また要旨集の作成に関しては、やはり学術振興会から全面的な資金援助を受けた。ここに厚く感謝の意を表したい。